

# 大河津可動堰改築を推進

～ 著しく老朽化した施設の改築及び流下能力不足の解消～  
信濃川水系大河津分水路（新潟県西蒲原郡分水路町）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

大河津可動堰は、信濃川と大河津分水路の分派点に位置し、昭和6年に完成して以来、洗堰あらいぜきとともに大河津分水の根幹的施設(分流制御施設)として、治水、利水機能等に大きな役割を果たしてきています。しかし、設置後70年以上経過し、施設本体の老朽化が顕著となるとともに、敷高等の影響により流下能力不足が生じており、その抜本的対策が急務となっています。

可動堰が倒壊すると、信濃川に水が流れなくなり、越後平野の利水に甚大な被害をもたらすだけでなく、治水上も洪水時の右岸堤の破壊につながり、下流域に甚大な被害をもたらす可能性があるため、可動堰の改築が必要となっています。

### 2) 全体計画

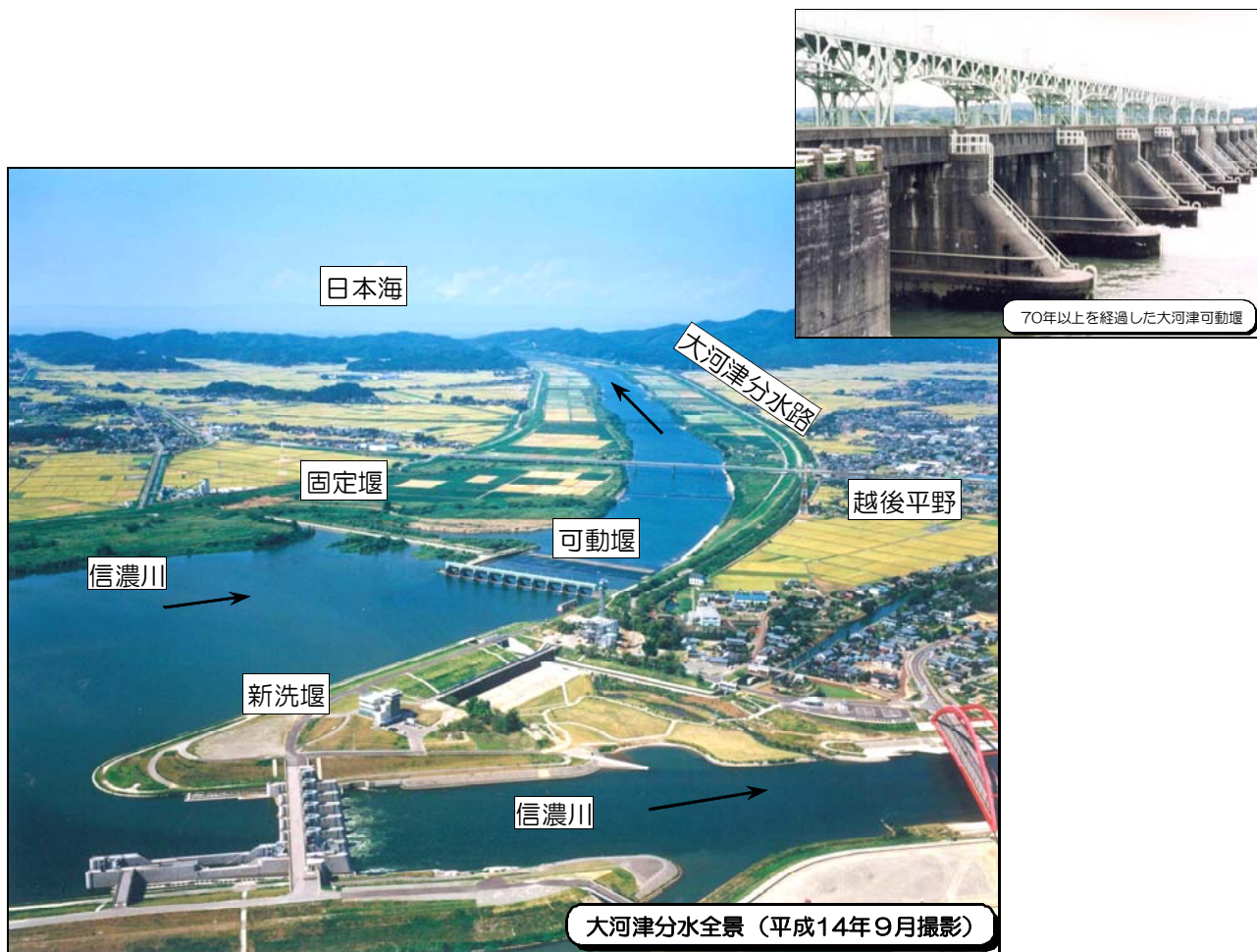
堰本体改築、低水路掘削 等

## 2. 事業の経緯

平成15年度に「特定構造物改築事業」により、改築事業に着手しています。

## 3. 平成16年度の実施内容

平成16年度は、堰下流河道掘削に着手します。



# 堀之内消流雪用水導入事業を完成 ～冬期の安全で快適な暮らしを実現～ 信濃川水系魚野川（新潟県北魚沼郡堀之内町）

## 1．事業の概要

### 1) 目的

北魚沼郡堀之内町は、年平均の最大積雪深は2 m以上にも達し、日最大降雪深が1 m以上を記録することもある新潟県内でも屈指の豪雪地帯です。これまで雪処理のため、市街地を流れる与越川・旧与越川を雪捨て場として使用してきましたが、冬期の流量が少ないため投雪した雪が堆雪して浸水被害が生じていました。

このため、浸水被害を防止し冬期間の生活環境の改善を図ることを目的として、冬期間水量の豊富な魚野川から与越川・旧与越川に消流雪用水を導水する消流雪用水導入事業を実施しています。

### 2) 全体計画

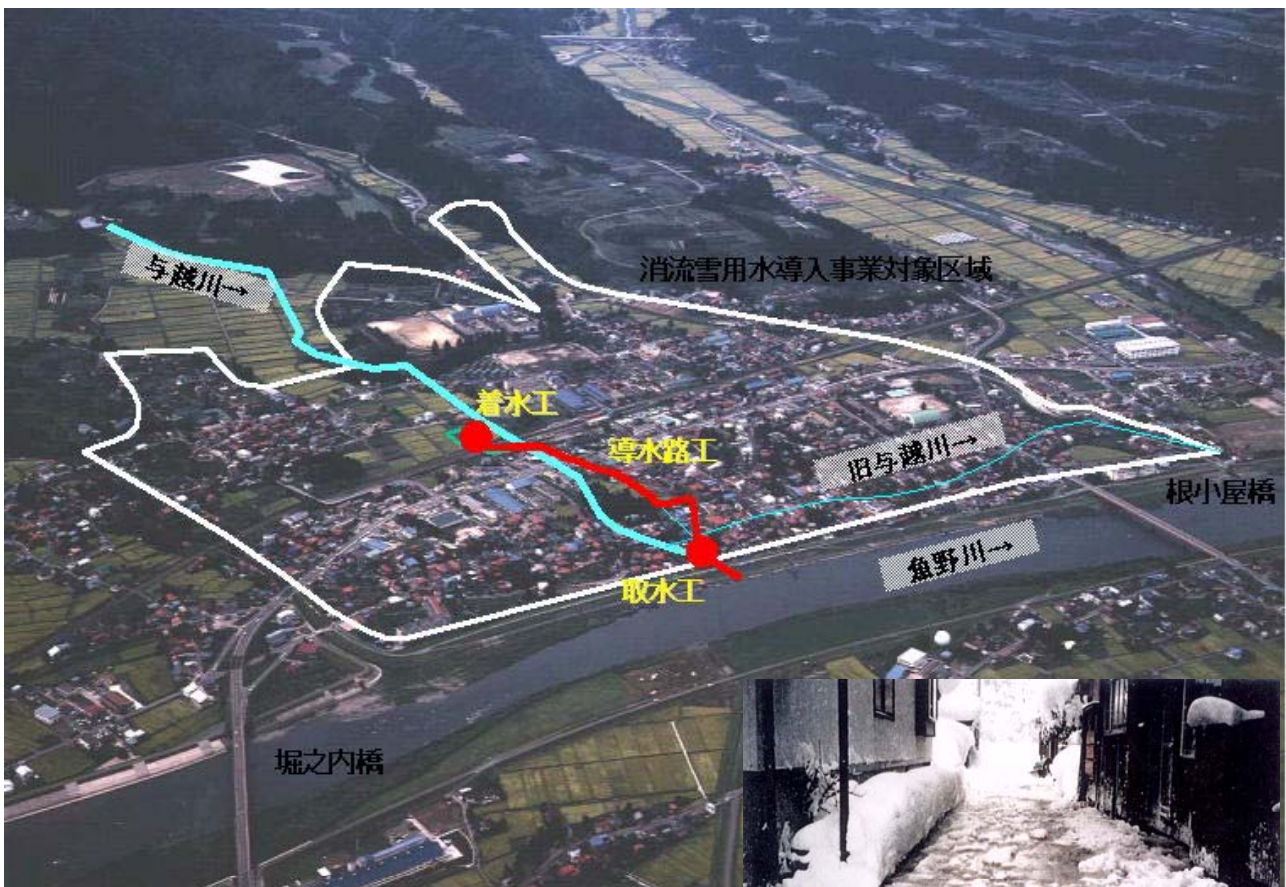
取水工、ポンプ設備、導水路工 等

## 2．事業の経緯

平成13年度の着手以降、取水工、導水路工等を実施しています。

## 3．平成16年度の実施内容

平成16年度は、ポンプ設備、導水路工を実施し、一連の整備を完成させます。



旧与越川の浸水状況

# 魚野川床固工群の整備推進

～新潟県南魚沼郡湯沢町～

## 1. 事業の目的

### 1) 目的

魚野川は、リゾート開発に伴い溪流沿いにもマンション、フィッシングパーク等が開発され地域の資産価値が高まっている。一方、平成10年9月に発生した出水に伴い、マンションの基礎洗掘やJR線付近の渓岸侵食等の問題が発生しており、魚野川流域は、未だ土砂災害に対して危険が高く、再度災害防止の観点から集中的な整備が求められています。

湯沢町では、毎年観光客が700万人以上訪れており、アクセスとして関越自動車道・JR上越線・国道17号等が整備されている。これらの重要交通網の保全及び湯沢町土樽自然公園計画等と併せ、地域振興を推進する魚野川床固工群の整備を推進します。

また、三俣地区において土石流危険溪流の水無川で水無沢川第3号砂防えん堤を整備し、観光拠点の三俣地区や国道17号の保全を図ります。



H10.9出水被災状況（マンション基礎洗掘）

### 2) 全体計画

事業計画：魚野川床固工群（流路延長5.8km、床固工、帯工、護岸工等）  
水無沢川第3号砂防えん堤1基

## 2. 事業の経緯

平成4年度 魚野川床固工群に着手

平成14年度 水無沢川第3号えん堤に着手

## 3. 平成16年度の実施内容

### ・魚野川床固工群

床固工2基、護岸工、東橋架替

### ・水無沢川第3号砂防えん堤



水無沢川第3号砂防えん堤（三俣地区）



魚野川床固工群(土樽地区)

なかしゆく

# 中宿海岸局部改良事業に新規着手

にいがたけんいといがわしなかしゆく  
新潟県糸魚川市中宿

## 1. 事業の概要

中宿海岸は、新潟県南西部の糸魚川市位置するに日本海に面した海岸です。

平成 15 年 12 月 19 日～20 日にかけての暴風・高波により、中宿地区では民家 2 棟が床上浸水、住宅 5 棟、倉庫等 20 棟が一部損壊し、12 世帯 33 人が自主避難したほか、国道 8 号が通行止めとなるなど甚大な被害が発生しました。

このような状況から、人家や国道への越波被害等を防止するため、波浪制御施設である離岸堤の整備に着手します。

## 2. 事業の内容

事業期間：平成 16 年度～平成 17 年度

事業延長：150m

全体計画：離岸堤 1 基

## 3. 平成 16 年度の実施内容

離岸堤整備に着手します。



事業箇所（平成 11 年 4 月撮影）



被災状況（平成 15 年 12 月撮影）

# 一般国道8号 大野大橋(黒埼拡幅)の完成 新潟県新潟市～白根市

## 1. 事業の概要

黒埼拡幅は、一般国道8号の新潟市から白根市間の交通混雑の解消を目的とした、新潟県新潟市下山田から白根市下塩俵に至る延長約4.1kmの道路です。

## 2. 事業の経緯

昭和47年度に事業着手し、同年度に用地買収、昭和49年度に工事着手しており、これまでに延長約3.5kmの完成4車線供用をしております。

## 3. 平成16年度事業の内容

平成16年度は、大野大橋(L=142m)を含む、新潟市大野町から白根市下塩俵間の延長約0.6kmについて、橋梁・舗装工事を推進し、全線完成4車線供用する予定です。



平成16年度供用に向け工事の進む大野大橋  
(白根方向から新潟方向を望む)

# 一般国道116号 巻バイパスの部分供用 新潟県西蒲原郡巻町

## 1. 事業の概要

巻バイパスは、一般国道116号の巻町市街地部の交通混雑の解消を目的とした、新潟県西蒲原郡巻町下和納から同町中郷屋に至る延長約4.9kmの道路です。

## 2. 事業の経緯

平成元年度に事業着手し、平成4年度に用地買収、平成7年度に工事着手しております。

## 3. 平成16年度事業の内容

平成16年度は、巻町赤縮から同町中郷屋間の延長約3.3kmについて、改良・橋梁・舗装工事を推進し、暫定2車線供用する予定です。



平成16年度供用に向け工事の進む巻バイパス  
(新潟方向から柏崎方向を望む)

# バリアフリー対策の推進

## 一般国道7号 明石自転車歩行者道 新潟県新潟市

### 1. 事業の概要

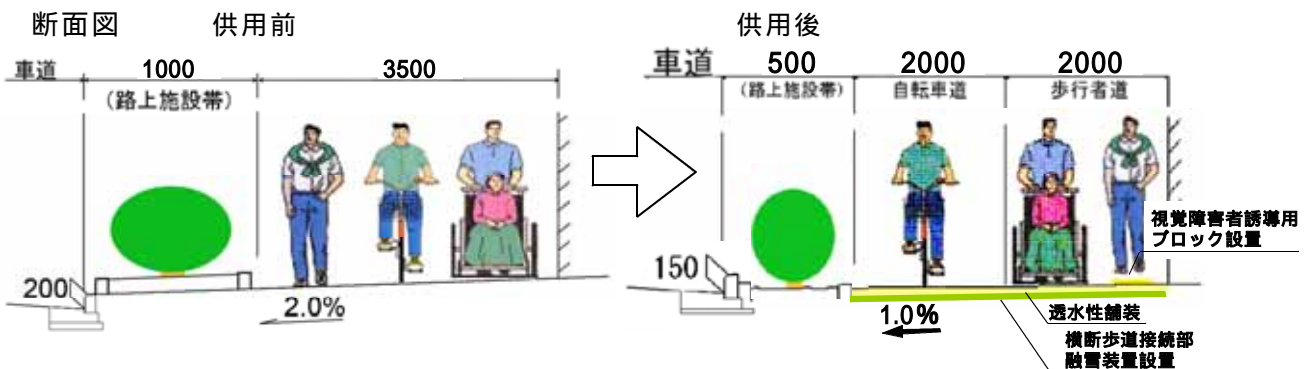
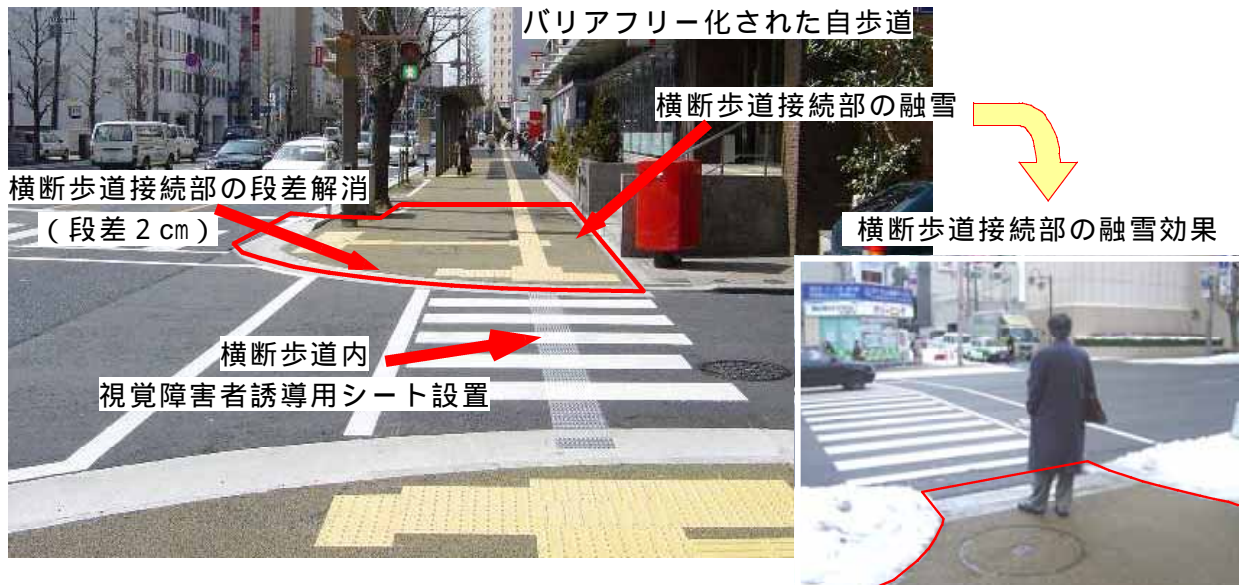
明石自転車歩行者道は、公共施設や商業施設が集中し、自転車や歩行者の交通が多く、快適で誰もが利用しやすい歩行空間の形成を目的とした、東大通交差点から栗の木橋交差点に至る延長約0.9kmの事業です。

### 2. 事業の経緯

平成13年度に「新潟駅前地区 交通バリアフリー検討委員会」を設置し、交通バリアフリー法に基づき、地域の方々や公安委員会と意見交換を行いながら検討を進め、平成15年度には、新潟市が策定した「交通バリアフリー基本構想」の特定経路に選定されています。

### 3. 平成16年度事業の概要

平成16年度は、新潟中央郵便局から明石1交差点間約0.4kmについて、改良工事を推進します。



# 一般国道 117 号 <sup>おおくら</sup>大倉バイパスの事業促進

## <sup>なかうおぬま つなん あしがさき</sup>新潟県中魚沼郡津南町芦ヶ崎

### 1. 事業の概要

<sup>おおくら</sup>大倉バイパスは、津南町芦ヶ崎地区における狭小な幅員を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした延長約 1.6 km の事業です。

### 2. 事業の経緯

本事業は、平成 11 年度に事業着手し、平成 12 年度に用地買収、平成 13 年度に工事着手しております。

### 3. 平成 16 年度事業の内容

平成 16 年度は、<sup>おおくら</sup>大倉トンネル (L=885m) の工事に着手します。



終点側トンネル坑口（十日町市側）を望む

# とよてるいりふね くらしのみちゾーン 豊照入舟地区 新潟県新潟市

## 1. 事業の概要

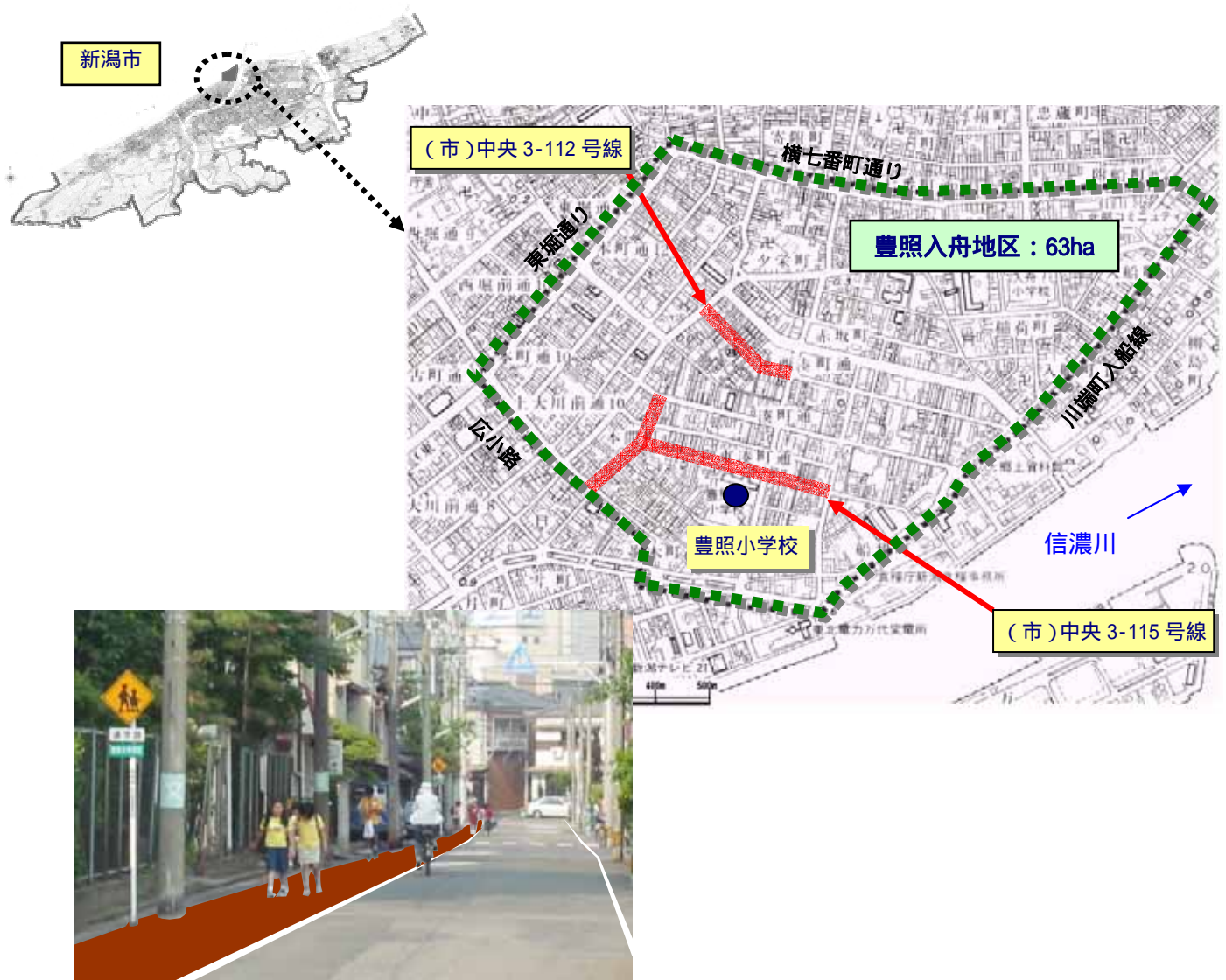
身近な生活道路において、車よりも歩行者・自転車の安全・快適な利用を優先し、地域の方々と協働で質の高い生活空間を創出する「くらしのみちゾーン」として、先導的な取組を進めます。

## 2. 事業の経緯

平成15年6月30日に、「くらしのみちゾーン」として地区登録されています(全国42地区)。平成15年度は、「みち歩き点検」等を行うなど地域の方々と協働して計画づくりを行っています。

## 3. 平成16年度実施概要

平成16年度は、歩行者の交通安全確保を図るため、歩車共存道路の整備に着手します。



# 新潟港海岸（西海岸地区）の整備推進

新潟港海岸：新潟県新潟市

## 1．事業の概要

新潟港海岸（西海岸地区）は、著しい侵食傾向にある海岸であったことから侵食対策工事が行われてきました。しかし、日本海側特有の冬季波浪により施設前面の海底が侵食され崩壊の危険があったことから、恒久的な対策と併せて快適で潤いのある海岸環境の創出が可能となる「面的防護工法」により整備を行っています。

## 2．事業の経緯

新潟港海岸（西海岸地区）は、大規模な面的防護工法の先駆として昭和61年度より直轄による侵食対策事業に着手して以来、「国土保全」という観点から着々と整備が進んでいます。一方、市民からは過去に失われた白砂青松を蘇らせて「憩いの場としての海岸」を創出することが強く求められており、「ふるさと海岸整備事業」として快適な海岸空間の創出に向けて事業を進めており、平成28年の完成を目指しています。

## 3．平成16年度事業の内容

突堤・離岸堤(潜堤)および護岸(養浜)の整備推進を図ります。



新潟港海岸（西海岸地区）イメージパース

# 信濃川左岸緑地の整備推進

## 新潟港：新潟県新潟市

### 1. 事業の概要

港に親しめる憩いの場を形成するとともに、河川事業により整備された緑地（やすらぎ堤）との連続性を確保することにより、良好な親水空間を提供するものです。

また、当緑地整備区間は、新潟市歴史博物館（愛称：みなとぴあ）が3月27日に開館したことから、来訪者に対して良好な水辺空間を提供するため、早期完成を目指した整備を進めています。

### 2. 事業の経緯

平成元年に事業に着手し、平成10年3月に一部供用を開始しました。引き続き、未供用部分の早期供用を図るため、護岸、遊歩道等について整備を進めていきます。

### 3. 平成16年度事業の内容

平成16年3月27日に開館した新潟市歴史博物館前面の護岸整備推進を図ります。



信濃川左岸緑地周辺の現況

# 港湾拡張整備の促進

～ 静脈物流拠点港(リサイクルポート)の整備促進～

姫川港：新潟県糸魚川市

## 1. 事業の概要

姫川港は、平成15年4月にリサイクルポートの指定を受け、静脈物流拠点港としての整備を進めています。廃棄物をセメント焼成炉やバイオマス発電等に利用しており、循環型社会の構築の一翼を担っています。

また、周辺地域から豊富で良質な石灰石が産出されることから化学工業、セメント工業が発展しており、取扱貨物量も年々増加しており、その増加する貨物量やセメント船の大型化に対応するため、岸壁(-10m)の整備と航路・泊地の増深、拡幅を進めています。

## 2. 事業の経緯

平成10年度に事業に着手し、平成13年度に岸壁(-10m)を完成供用しました。引き続き、航路泊地の増深・拡幅、港の拡張について整備促進を図ります。

## 3. 平成16年度事業の内容

引き続き、護岸(防波)、防波堤(西)、航路(-10m)、航路(-10m)東防波堤撤去等の港湾整備、及び防塵柵の完成など、事業促進を図ります。



姫川港航空写真

# 「野生ゾーン」の整備促進

## 国営越後丘陵公園

### 1 事業の概要

#### 1) 目的

国営越後丘陵公園は、本州日本海側で初めての国営公園です。

雪国の特性に配慮し恵まれた自然環境や交通条件のもと「天に学び、地に遊び、人と集う、越の里」を基本テーマに、自然環境を保全しつつ広域的レクリエーションや文化活動への対応を図るべく整備を進めています。

#### 2) 全体計画

【位置、面積】 新潟県長岡市、約400ha

【全体構成】 「健康ゾーン」(約120ha)、「文化ゾーン」(約100ha)、「野生ゾーン」(約180ha)の3つのゾーン構成で整備

### 2 事業の経緯

平成元年度に事業に着手し、平成10年7月の一部開園以来、平成15年7月までに、「健康ゾーン」の119.6haを開園しています。入園者は、年々増加しており、平成16年2月末現在で、延べ145万人の来園者が訪れています。

また、平成15年度には、「野生ゾーン」の整備に着手しました。

### 3 平成16年度の整備内容

「野生ゾーン」の整備を促進します。

「野生ゾーン」は、雪国里山の自然を活かし、自然観察等を通じて、自然を楽しみ、体験学習を行う場として、3箇所のエリアに分けて整備を行います。

自然と楽しみながら里山の体験学習ができる「里山ふれあいエリア」から整備を推進します。



公園計画図

# にしかわ 西川下流域の総合的浸水対策

## 新潟県新潟市（公共下水道事業）

### 1. 事業の概要

#### 1) 目的

新潟市は平成 10 年 8 月 4 日の集中豪雨により西川下流部の坂井輪排水区及び小新地区で床上・床下浸水の湛水被害が発生しました。そこで、緊急的かつ恒久的な雨水対策として、下水道による雨水排除の整備水準を 5 年確率から 10 年確率に引き上げ、今後の浸水被害の抑制を図るべく平成 11 年度より国土交通省、新潟県、新潟市の各管理者が一体となって施設整備を行っています。

平成 16 年度に小新ポンプ場が完成し一部区域の浸水被害軽減が図られますが、さらに整備区域を拡大するため、事業計画を前倒しして雨水バイパス管整備を延伸します。

#### 2) 全体計画

- ・新潟市
  - 雨水バイパス管
    - 管径 3750mm 延長 650m (H11～H14)
    - 管径 3500mm 延長 2,617m (H12～H18)
    - 管径 3000mm 延長 285m (H16～H17)
  - 小新ポンプ場
    - 排水能力 25m<sup>3</sup>/秒 (H12～H16)
- ・国
  - 西川第二排水機場の新設（排水能力 25m<sup>3</sup>/秒）
- ・新潟県
  - 西川の河道改修（既設堤防の嵩上げ）

### 2. 事業の経緯

平成 11 年度より基本計画調査に着手

平成 12 年度より小新ポンプ場、雨水バイパス管の整備に着手

平成 16 年度小新ポンプ場完成予定

### 3. 平成 16 年度事業の内容

前年度に引き続き小新ポンプ場と雨水バイパス管の整備を行い、事業の完了を図ります。



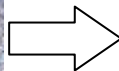
坂井輪地区の湛水状況(H10年8月)



雨水専用バイパス管イメージ



	床上	床下	道路冠水	計
浸水面積(ha)	17	57	328	402
浸水戸数(戸)	359	936		1295



	床上	床下	道路冠水	計
浸水面積(ha)	0	16	75	91
浸水戸数(戸)	0	255		255

# 北陸新幹線開通に伴う新幹線新駅周辺の開発・整備 ～上越市新幹線新駅土地区画整理事業の着手～ 上越市新幹線新駅地区（新潟県上越市）

## 1．事業の概要

当該地区は上越市高田市街地の南部に位置し、JR信越本線脇野田駅<sup>わきのだ</sup>を中心に既成市街地が形成されています。市街化区域内には住宅、工場の土地利用が図られており、特定保留区域には住宅、農地が混在して無秩序に配置されている状態である。

本地区は北陸新幹線上越駅（仮称）の整備に伴い、広域的な駅利用者に対応する交通結節機能の充実を図ると共に、駅前交通広場をはじめとする都市基盤整備を行い、併せて商業業務を中心とした土地利用の促進を図る計画です。

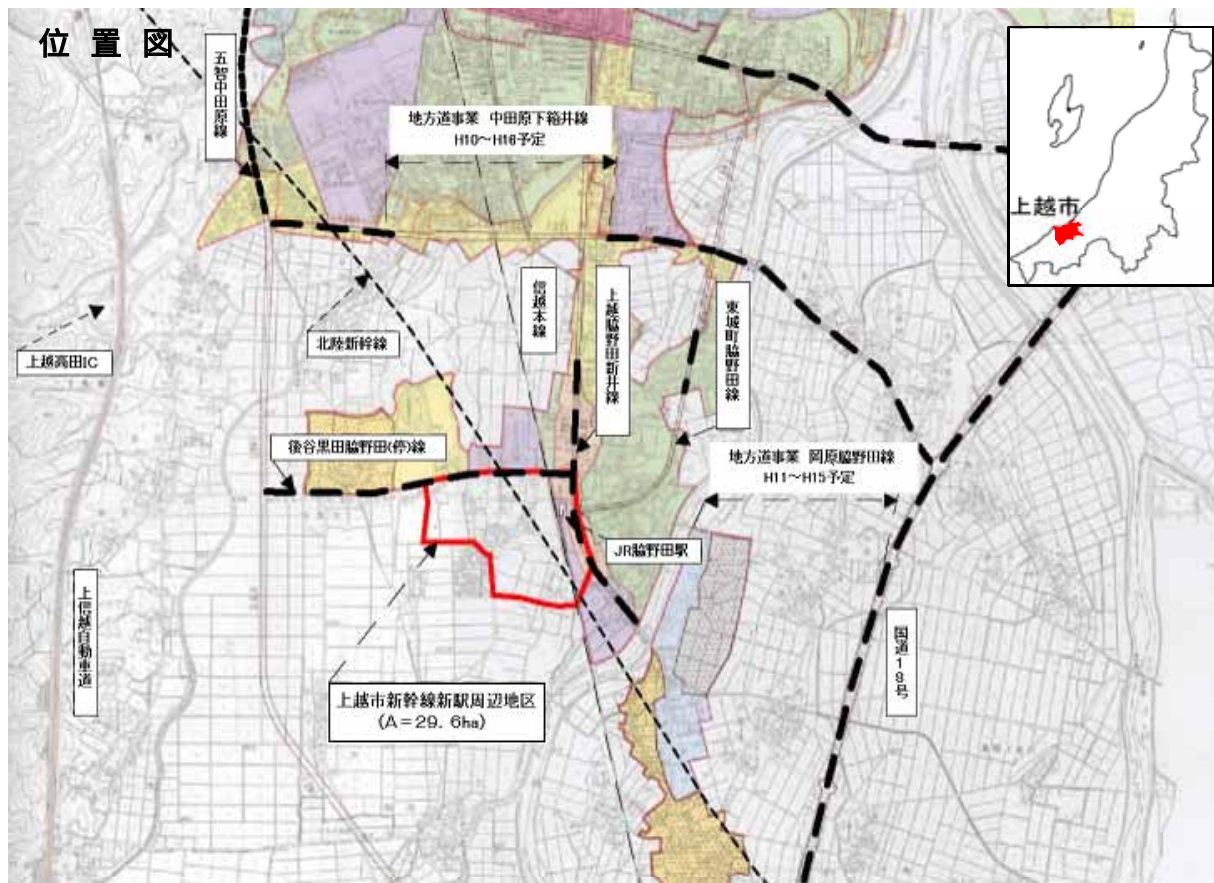
また、関連事業において新幹線新駅と信越本線脇野田駅との乗継ぎ円滑化を図る観点から、信越本線を移設し一体駅としての整備を行う事により鉄道機能と道路機能の充実が図られます。

## 2．事業の経緯

- 平成9年度 新都市市街地機能整備構想策定
- 平成11年度 新幹線新駅周辺整備計画策定
- 平成12年度 北陸新幹線の富山～長野間開業が概ね12年強後と発表される
- 平成14年度 12月より地域説明会を開催

## 3．平成16年度事業の内容

実施設計業務を行います。



# 東京税関新潟税関支署東港出張所

## - I T 国家の実現に資する官庁施設の整備の推進 -

### 1 . 事業の概要

現在の庁舎は、平成11年に新潟県より新潟国際貿易ターミナルの一部を借用していましたが、近年、東港における外国貿易船の入港増加及び輸入通関処理件数の著しい増加に伴って年々職員が増員されてきており、現在の庁舎では非常に狭隘な状況です。また、現在まで税関検査業務に必要な税関専用の貨物検査場が整備されていなかったため、業務の遂行に著しい支障をきたしていました。これらを解消するため、今回、貨物検査場と併せて庁舎を新営するとともに、国際物流における行政手続きのシングルウインドウ化、24時間フルオープン化を図るため、通関行政のIT化推進に対応した庁舎の整備を行います。

庁舎建設地は、新潟県東港工業地帯に位置し、15年度末に稼働するコンテナ貨物大型X線検査場に隣接して建設する予定であり、これにより税関検査業務の一層の効率化と迅速化が図られます。また、IT化に対応した庁舎の整備を行うことにより、行政情報の適切な処理・管理・バックアップによる申請・届出等の諸手続の効率化が図られ、国民の利便性向上が図られます。

### 2 . 事業の経緯

平成16年度 設計・工事着手

平成17年度 工事完成予定

### 3 . 平成16年度事業の内容

平成16年度は、設計に着手・完了させるとともに、工事に着手します。

敷地面積 約14,290㎡(県有地)

構造・規模 S-2 約2,100㎡



新潟東港全景

# 新潟第2地方合同庁舎

## - 防災拠点施設の整備の推進 -

### 1. 事業の概要

新潟市内にある国の機関の多くが昭和39年の新潟地震の直後に建設されたため、現在では建設後30年以上経過し、老朽化がそれぞれの施設で同時に進行しています。また、行政需要の変化、増大によって狭隘化が進んでおり、北陸の中核都市の一つである新潟市の市内各官署の行政サービスの低下は、より広域的なものとなります。

この問題を解決し、さらに、集約・合同化による各官署間の連携強化、行政サービスの向上、災害時の災害対策の連携と迅速化を図るとともに、近接する県庁・業務施設・商業施設と一体となった複合的な都市拠点の形成に資することにより、まちづくりに寄与する官庁施設整備を目指し、新潟第2地方合同庁舎の新営を実施します。

### 2. 事業の経緯

平成8～11年度	用地取得
平成13年度	全体配置計画・A棟設計に着手
平成14年度	A棟工事着手
平成17年9月	A棟完成予定

### 3. 平成16年度事業の内容

新潟第2地方合同庁舎は全体で5棟の庁舎からなっており、このうち北陸地方整備局及び新潟地方法務局バックアップセンターが入居するA棟について、引き続き工事を推進します。

敷地面積	約55,000㎡
構造・規模	SRC-8(免震構造) 約16,400㎡



新潟第2地方合同庁舎A棟完成予想図